

写真で見る「そうま復興米」から「そうまプロジェクト」へのあゆみ

東京農大東日本支援プロジェクト 土壌肥料グループ

3.11の大津波により相馬市内では1,100haの農地が被災した。5月より東京農大東日本支援プロジェクトの一環として、岩子の被災水田1.7haで「そうま方式」による除塩と転炉スラグの施用による土壌改良を施し、2012年5月に水稻栽培を再開した。

その結果、9月に安全・安心が確認された「そうま復興米」10トンを生産した。

注：転炉スラグとは、肥料取締法で認められた肥料



2011年2月27日



2011年3月14日



2011年5月の岩子



がれきは撤去されたが（2011年9月）



水田表面に堆積した津波土砂中には大量の塩分が残っていたが、わだち跡には雑草が！



津波土砂を混層！「相馬方式」の開始（2011年9月）



転炉スラグ施用（2012年4月）



田植えが終わった（2011年9月）



聞こえる復興の足音（2012年9月）

★ 稲わら・玄米から放射性セシウムは、検出されず！

カドミウム(Cd)： 0.01 mg/kg以下(基準値 0.4mg/kg以下)

ヒ素(As)：0.04 mg/kg(国内産米の平均値 0.16mg/kg)

(玄米現物当たり mg/100g)

試料	ナトリウム	マグネシウム	リン	カリウム	カルシウム	マンガン	鉄	銅	亜鉛
そうま復興米	1.6	144	365	266	8.6	2.4	2.3	0.3	2.1
食品成分表	1.0	110	290	230	9.0	2.1	2.1	0.3	1.8



相馬の田んぼに黄金色の稲穂を復活しよう！ 点(1.7ha)から面(50ha)に広げよう！



そうまプロジェクト



岩子の農家・相馬市役所・JA相馬・東京農大が一体となり、相馬農業の復興を目指す。その先駆けとして、岩子の被災水田復興を2012年の1.7haから2013年には50haに広げ、25年産「そうま復興米」を作付ける。「そうまプロジェクト」に不可欠な転炉スラグ500トンの内、450トン了新日鐵住金(株)、50トンを東京農大が提供し、「そうま方式」の効果検証と2014年以降の津波被災農地復興手法のマニュアル化を確立する。



相馬市役所で記者会見(3月)



水田の畦修復(4月)



水田の均平化(4月)



岩子の農家の皆さん総出で転炉スラグ施用(4月)



3年ぶりの田植え(5月)



岩子が早苗で埋め尽くされた(5月)



順調な生育(7月)



頭を垂れ始めた「そうま復興米」(9月)



25年産「そうま復興米」の稲刈りが始まった(9月)